

# BUSINESS REPORT

証券コード 9692  
第 **58** 期 報告書

2025.02.01 ▶ 2026.01.31



パーパスを掲げて

事業を推進した今期、

中期経営計画の目標達成に向け、

躍進の年となりました。

代表取締役社長

姫野 貴

#### POINT

第58期は売上高・各利益で  
過去最高を更新しました

01

全セグメント  
増収増益となりました

02

年間配当は15円増配の  
70円を予定しております

03



“  
3カ年の中期経営計画、  
初年度は計画を上回る  
好スタートとなりました  
”

株主の皆様には、日ごろより温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。第58期（2025年2月1日～2026年1月31日）における事業の概況についてご報告申し上げます。

当期における日本経済は、雇用・所得環境が改善するなか、景気は緩やかな回復基調を維持しました。原材料やエネルギー価格の高騰に伴う物価上昇や、アメリカの政策動向など、国内外における先行きは不透明な状況にありますが、当社グループの属する情報サービス産業においては、DX推進や生成AIの活用などICTへの投資が引き続き堅調に推移しています。

このような状況のなか、当社グループは長期経営計画「VISION 2030」の基本方針「エッセンシャルカンパニーとして更なる進化と成長」の実現を目指した中期経営計画の初年度として、採用強化やM&A推進など

の成長に向けた投資を実施しながら、事業変革の加速に向け取り組んでまいりました。

事業面においては、インテグレーションセグメント、コネクティッドセグメント、ソリューションセグメントの全てのセグメントが、前年比で増収増益となり、特にネットワーク機器を含む官公庁向け大型案件およびセキュリティサービス事業の伸長が業績に大きく寄与しました。結果、売上高は期初の業績予想を約50億円上回る前年比17.2%増の大幅伸長となり、売上高・売上総利益・営業利益・経常利益・当期純利益の全てが過去最高となりました。

また、当社グループは中長期的な資本政策として、株主還元強化を図っております。期末配当金につきましては、今期業績が計画を上回る事業成長を果たしたことを踏まえ、皆様への利益還元方針に基づき、5円増配の1株当たり40円を予定しております。年間配当金は中間配当と合わせ、70円となる予定です。なお、自己株式の取得に関しましては、20億円規模の取得およびその消却を行いました。

“  
我々自身が進化することで、  
ICTでサステナブルな  
未来創りに貢献します  
”

依然として景気の下振れリスクは残るものの、企業のICT投資は底堅く推移すると期待しております。当社グループにおいても受注高・受注残高ともに過去最高と、好調に推移しており、中期経営計画の目標数値達成に向けて着実なスタートを切れたと捉えています。

中期経営計画2年目となる来期も、構造

改革の手は緩めず、人材採用や教育、M&A活動の加速や新規ビジネスの創出などにも引き続き注力してまいります。

また、長期経営計画「VISION 2030」の基本方針のもと、2029年1月期からの次期中期経営計画での更なる飛躍を視野に、進化と成長を図ってまいります。情報サービス産業が果たすべき使命は、ますます大きく、重要なものとなっていますので、我々自身が進化することで、ICTでサステナブルな未来創りに貢献してまいります。株主の皆様には引き続きご支援賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

#### 2026年1月期 実績

売上高	営業利益	ROE	年間配当
658 億円	73.3 億円	12.5 %	70 円
前期比 17.2% ↑	前期比 9.6% ↑	前期比 2.5pt ↑	前期比 15 円 ↑

#### 2027年1月期 業績予想

売上高	営業利益	ROE	年間配当
680 億円	77.5 億円	13.0 %	80 円(予定)
前期比 3.2% ↑	前期比 5.6% ↑	前期比 0.5pt ↑	前期比 10 円 ↑

# TOP MESSAGE

## シーイーシー 3つの強み

### 開発力



- 多種多様な業種・業界での開発実績をベースに顧客のDX化・課題解決を実現
- 企画から開発、インフラ構築、運用までワンストップで提供

### データ活用



- ビッグデータ分析・データ流通などプラットフォーム型サービスの拡充
- 業界特化型データ活用サービスを提供（製造業、医療、文教、自動車、物流）

PICK UP

### 自社商材



- 顧客のIT戦略に対応した自社商材の拡充
- データセンターを活用したクラウドサービスやプラットフォームを提供（ハイブリッド環境）

インテグレーションの“開発力”、  
コネクティッドの“データ活用”、  
ソリューションの“自社商材”。

多様化・複雑化する環境の変化に対し、  
当社の3つの事業セグメントの強みを  
掛け合わせることで、トータルサービスを提供します。

今回は“データ活用”の強みを活かした  
事例である「Dataxia」についてご紹介します。

データ活用



**Dataxia** (データクシア)

中期経営計画 2025-2027の注力事業の一つとして  
設定しているデータマネタイゼーション事業において、  
新たなサービスブランド「Dataxia」を立ち上げました

データマネタイゼーション **Dataxia**

- AIエージェント構築支援
- 生成AI導入支援

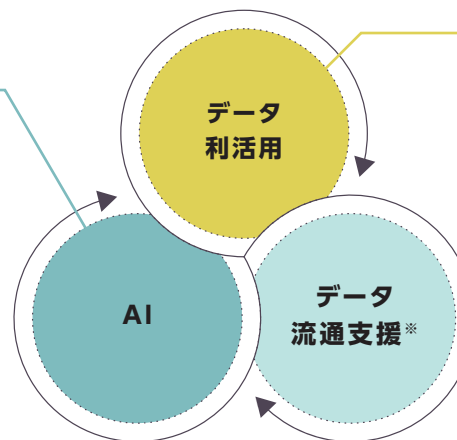
Dataxiaが貢献する領域



モビリティ



製造



ソリューション3本柱

需要予測

生産軽量最適化

故障予兆検地

エネルギー最適化

品質予測

物流・配送最適化

- ビッグデータ利活用基盤構築支援
- データ利活用基盤
- データ分析支援
- データ品質評価※
- プライバシー保護（秘匿化支援）
- データリテラシー教育支援※

※ 2027年以降リリース予定



スマートシティ・次世代エネルギー



家電IoT、デジタルエンターテインメント



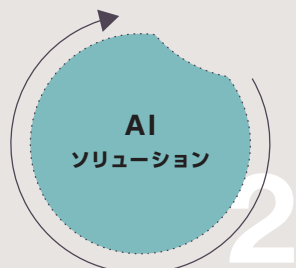
## Dataxiaとは？

企業内に蓄積された膨大な数のデータを価値ある資産へと転換し、社会や企業が抱える課題の解決に活かすためのソリューションブランドです。近年、センサーデバイスの普及に加え、クラウドやAI技術の急速な変化により、企業には多種多様なデータが大量に蓄積されるようになりました。しかし、その多くが十分に活用されていないのが現状です。Dataxiaは、こうしたデータを整理・分析するとともに、AIの高度化や企業内外で安全にデータを共有できる環境を整備することで、企業の新たなサービスの創出や収益化につなげることを目指しています。これにより、企業は自社のデータを単なる記録ではなく、事業成長を支える重要な資源として活用できるようになります。

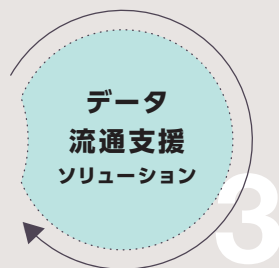
### Dataxia のソリューション3本柱



企業内の大規模なデータを効率的に集めて可視化し、分析することで、AIの高度化やデータドリブンな意思決定を実現



AIエージェントを活用して、業務効率化や人材不足の解消などといったさまざまな課題解決を実現



安全なデータ流通基盤を通じて、企業間でのデータの共有・活用を支援し、新規事業創出やマーケットの成長に貢献

## ブランド立ち上げの背景

企業や組織では、部門ごとにデータが散在しているため、共有や分析が進まず、十分な価値創出につながらない状況が続いています。更に、生成AIの急速な普及によりデータ活用の重要性が高まる一方で、AIの導入やデータ連携には高度な専門知識やセキュリティ対策が求められるため、企業や組織が単独でデータを取り込むことはますます難しくなっています。こうした環境変化を踏まえ、モビリティ、工場、オフィスなどで培ってきたデータ収集・蓄積のノウハウとツールを活かし、データ中心のアプローチでAIを最適化し、データの流通を支援するソリューションブランドとしてDataxiaを設立しました。

／ 知って納得！ ／

## IT用語教室



### データドリブンとは？

データを根拠にして判断や行動を行う考え方や進め方のこと

主観的な意思決定



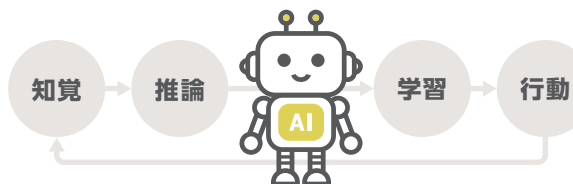
データドリブン



✓ 経験や勘ではなく、データという証拠に基づいて意思決定を行うことです！

### AIエージェントとは？

人がやっていた作業を自律的に実行する高度なAIのこと



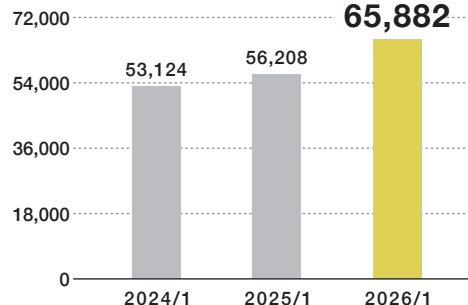
✓ 自ら考えて実行まで肩代わりしてくれる相棒のことです！

## 財務ハイライト

### 売上高

658億82百万円

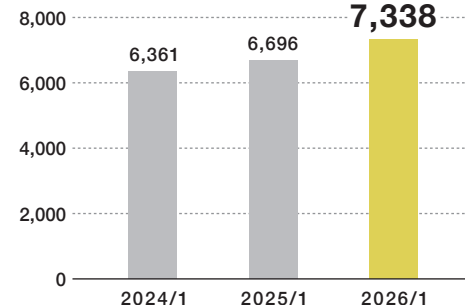
(百万円)



### 営業利益

73億38百万円

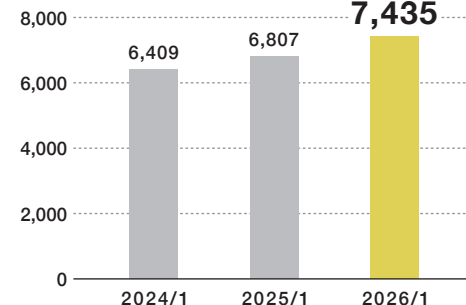
(百万円)



### 経常利益

74億35百万円

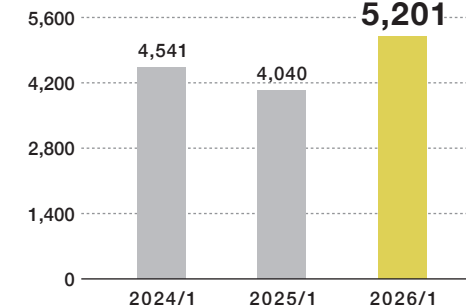
(百万円)



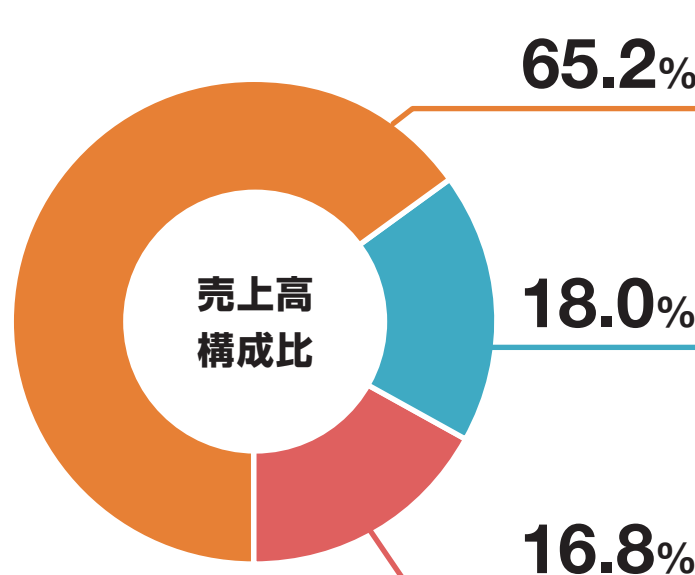
### 親会社株主に帰属する当期純利益

52億1百万円

(百万円)



### セグメント別構成比



### インテグレーションセグメント

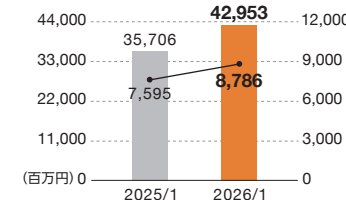
今期受注した官公庁向けの大型案件が業績に大きく寄与し、好調に推移しました。セグメント再編によるシナジー効果で、システム開発を中心に、インフラ構築から運用までを一気通貫で提供できるようになり、増収増益となりました。

売上高

429億53百万円  
(前期比 20.3% 増)

営業利益

87億86百万円  
(前期比 15.7% 増)



### コネクティッドセグメント

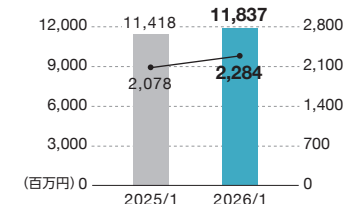
製造業を中心に総じて堅調に推移しました。注力事業であるデータマネタイゼーションが好調に推移したほか、顧客のIT/DX投資を背景にクラウド関連の需要も高まっており、増収増益となりました。

売上高

118億37百万円  
(前期比 3.7% 増)

営業利益

22億84百万円  
(前期比 9.9% 増)



### ソリューションセグメント

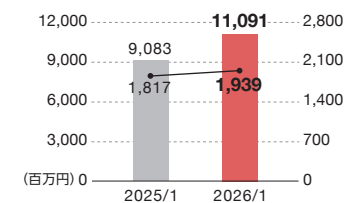
注力事業のセキュリティサービスが牽引し、好調に推移しました。官公庁自治体、民間企業でのセキュリティ意識の高まりとともに、セキュリティ強化に向けた高い需要を獲得しました。また、医療系の市場も活況で、増収増益となりました。

売上高

110億91百万円  
(前期比 22.1% 増)

営業利益

19億39百万円  
(前期比 6.7% 増)



売上高(左軸) 営業利益(右軸)

## TOPICS 01

「統合報告書2025」  
閲覧はこちらから



## 当社初「統合報告書2025」を 発行いたしました

ステークホルダーの皆様に当社の事業や中長期的な取り組みへの理解をより深めていただくため、本書の発行に至りました。本書では2025年2月に発表した当社グループのパーパスや事業戦略だけでなく、持続可能な経営に不可欠なマテリアリティとその特定プロセス、取締役や事業責任者からのメッセージなども掲載しております。「エッセンシャルカンパニー」として更なる進化と成長を遂げるため、今後も適切な情報開示を通じてステークホルダーの皆様との対話を深めるとともに、企業価値向上に努めてまいります。



## 当社グループに 情報システムサービス株式会社が 参画しました

## TOPICS 02

2025年4月より、新たに情報システムサービス株式会社が当社グループに加わりました。当社の経営基盤であるシステム開発事業の拡大および関西地区の体制強化を目的としており、両社のシナジーを発揮し、企業価値向上を目指して連携を強化してまいります。



## TOPICS 03

## 「健康経営優良法人2025 (大規模法人部門)」に 認定されました

2023年に初めて認定されて以来、3年連続3度目の認定となります。当社は、従業員が心身ともに健康で、個性と能力を最大に発揮できるよう、健康教育や啓発活動、メンタルヘルスフォロー施策の強化、従業員の声による職場環境改善などの施策を実施し、働きやすい職場環境づくりを推進しています。



## 会社概要

(2026年1月31日現在)

商 号 株式会社シーイーシー  
(Computer Engineering & Consulting Ltd.)  
住 所 〒150-0022  
東京都渋谷区恵比寿南一丁目5番5号 JR恵比寿ビル  
T E L 03-5789-2441(代表)  
設 立 1968年2月24日  
資 本 金 65億8千6百万円  
従業員数 単体1,659名／連結2,401名

### 役員および執行役員 (2026年4月21日現在)

#### ● 役員

代表取締役社長	姫野 貴	取締役(監査等委員)	境 俊治
取締役(執行役員)	高木 英樹	社外取締役	高橋 静代
取締役(執行役員)	大北 敦司	社外取締役	小杉 乃里子
取締役(執行役員)	酒井 靖男	社外取締役	名和 亮一
取締役(執行役員)	江上 太	社外取締役(監査等委員)	谷口 勝則
取締役(執行役員)	石原 直樹	社外取締役(監査等委員)	國安 幹明

#### ● 執行役員

執行役員	柿沼 譲	執行役員	高井 英行
執行役員	土岐 直路	執行役員	田蔵 慎一郎

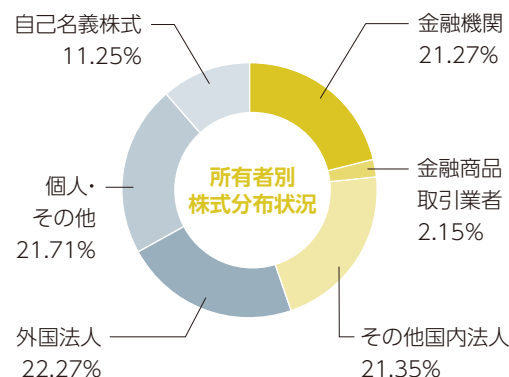
### 主なグループ会社

社名	事業内容
フォーサイトシステム株式会社	システム開発、構築、保守ならびに運用サービス
株式会社シーイーシー カスタマサービス	システム構築、ICT導入支援、 運用サービスならびにパッケージ販売
大分シーイーシー株式会社	システム開発サービス
希意禧(上海)信息系统有限公司	パッケージ導入支援サービス
株式会社コムスタッフ	人材派遣サービス
情報システムサービス株式会社	システム開発、パッケージ開発・販売

## 株式状況

(2026年1月31日現在)

発行可能株式総数 80,000,000株  
発行済株式総数 35,168,200株  
株 主 数 6,812名



### 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
ミツイワ株式会社	4,447,200	14.24
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,679,800	11.79
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,345,700	7.51
岩崎 宏達	1,335,100	4.27
富士通株式会社	1,240,000	3.97
シーイーシー従業員持株会	1,059,400	3.39
BNP PARIBAS LUXEMBOURG/2S/ JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS/ UCITS ASSETS	965,000	3.09
日本フォーサイト電子株式会社	930,960	2.98
MSIP CLIENT SECURITIES	758,081	2.42
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	493,931	1.58

※ 持株比率は、自己株式(3,957,736株)を控除して計算しております。

## 株主メモ

事業年度 2月1日～翌年1月31日  
期末配当金受領株主確定日 1月31日  
中間配当金受領株主確定日 7月31日  
定 時 株 主 総 会 毎年4月  
株 主 名 簿 管 理 人 三井住友信託銀行株式会社  
同 連 絡 先 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
TEL 0120-782-031(通話料無料)  
上 場 証 券 取 引 所 東京証券取引所 プライム市場(証券コード9692)  
公 告 方 法 電子公告 公告掲載URL <https://www.cec-ltd.co.jp/>

※ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。

### ご注意

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三井住友信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式会社シーイーシー

※記載の会社名および商品名等は、一般に各社の商標、または登録商標です。

